

平成 26 年度 第1回「横浜市地域公共交通会議」	
日時	平成 27 年 1 月 20 日 (火) 午後 2 時から午後 3 時 30 分
場所	崎陽軒本店 6 階 1 号会議室
開催形態	公開(傍聴4名)
議題	(1) 協議事項 ア.乗合バス「E バス」のバス停追加等について(資料1) イ.コミュニティバス「四季めぐり号」のルート変更等について(資料2) (2) 報告事項 ア.取組地区の状況について(資料4) イ.市民委員の公募について(資料3)
議事	<p>1.協議事項</p> <p>資料 1 乗合バス「E バス」の停留所追加等について</p> <p>[委員] 停留所を新設する「密蔵院前」ですが、環状 4 号線上には他の停留所があり、乗降増は見込めないのでは？ 高齢者には「鍋谷交差点」や「赤坂橋」が適し、信者には「密蔵院前」でしょう。「密蔵院前」の乗降客層はいかがですか？</p> <p>→[事務局] 「密蔵院前」の辺りの方々は、E バスを利用する際、「ばんどうクリニック前」まで戻っており、利便性の向上には「密蔵院前」の停留所が良いとのこと。通勤通学時間帯も運行しているので、幅広い世代を網羅しています。</p> <p>[委員] E バスは下和泉地区から駅へのアクセスに主眼をおいたもの。当初とは違う停留所を設置したことを気にします。隣接する和泉町の方々もアンケート(合意形成)に参加したい、隣接地区の利便性も考慮して欲しいなど、潜在意見としてあったのではないですか？</p> <p>→[事務局] 「密蔵院前」付近も下和泉地区内になります。実証運行中のアンケートは、バス車内と「密蔵院前」を含む下和泉地区全地区が対象です。自主運営が長い E バスを路線バス化する経緯の中で、地区が広いことから停留所が増えると利便性がいいという意見が多く、既存の事業者さんのご理解をいただいて今回の追加となりました。当初はそこまでは、明らかになっておらず、今回の調査(アンケート)で明らかになったものです。</p> <p>資料 2 コミュニティバス「四季めぐり号」の運行系統の変更について</p> <p>[委員] 「乗客定員が 13 名のため、定員超過で続行車が必要な時間帯があるとなつていますが、のりこぼしが発生する頻度はどのくらいですか？</p> <p>→[事業者] のりこぼしは、月に 4 回程度、夏場は一日の 130 人の平均利用者数を超え、その時は 10 回程度の対応車両(続行車)をだす状況です。</p> <p>→[事務局] 乗客定員 13 名は足りていますが、利用者数のばらつきがあり、のりこぼしが発生している状況です。</p> <p>[委員] 消費税増税で、採算ラインについて 3%程度すなわち 1 乗車 10 円程度、厳しくなっていると思います。運賃を据え置かれていますが、どのように対応しているのか？</p> <p>→[事業者] 消費税増税分を丸々負担している厳しい状況です。回数券や 2 段階導入のメリットで今後の利用者が増えるのではないかと前向きに捉え、維持しています。</p> <p>[委員] バスを利用しない人は価格が一番の理由です。子供運賃の設定で送迎の軽減と親子連れが増えるのではないのでしょうか。「子供運賃の導入も十分な可能性があるので、検討する」と回答いただいておりますが、テーマ型共創フロントの応募の前に、子供運賃の検討はされていますか？</p> <p>→[事務局] 今年度は利用啓発を中心に、車内展覧会の実施と地元パン屋の協賛を得ました。利用者と未利用者のモニタリングは準備中です。子供の乗車利用拡大の可能性は、利用の有無別の利用動向調査を行う中で調べ、ルート改正など合わせ</p>

て検討していきます。

- [委員] 他の地区も含めて協賛は思うように進んでいません。四季めぐり号には、スーパー三和と四季美スーパーの停留所があるため、スーパーとバス利用者を結ぶシステムが必要ではないでしょうか。例えば数%の割引サービスを活用することで、利用者が増えて、結果、街の活性化になるのではないのでしょうか。画期的で無茶なアイデアかもしれませんが、運転手の手間を増やさないで、利用者増を求めるアイデアです。テーマ型共創フロントに本会議での提案内容、乗車率の増加につながる提案も追記してはどうでしょうか。
- [事務局] テーマ型共創フロントは、提案者と一緒に事業を行うものです。現在は、運行ルート上の他事業者との活性化展開の際の PR ツールとして活用を考えています。実績を積み重ねながら、提案事業を実現できる方と手を携えて取り組んでいきたいと思っています。
- [委員] 四季めぐり号に関するこれまで会議等で提案されてきた、色々なアイデアのエッセンスのまとめが、道路局の HP 上に掲載していると、取り組んでいる様子がわかりやすく、よい提案が出てくると思いますので、HP の充実を進めて下さい。
- [事務局] 想定される提案例に地域公共交通会議内の提案を加筆するといった、応募シートの充実などを検討します。

2.報告事項

資料 4「地域交通サポート事業 取組地区一覧」について

- [委員] 休止中の地区に様々な理由があるとのことですが、これらの地区に本格運行に至った地区の様子を PR するとまた違う形になるのではないのでしょうか。休止中の地区の理由と状況を教えてほしい。
- [事務局] 需要調査の結果、公共交通導入には需要が足りないケースがあります。また、新たな交通サービスを導入すると、既存路線に影響（減収）がでるので、休止した地区もあります。需要が足りない場合、福祉有償サービス（会員登録制）を利用する低廉なサービスを選択した地区もあります。稀なケースですが、地域のキーパーソンが亡くなられ、活動自体が滞るケースもありました。
- [委員] 高齢化社会や若者のマイカー離れなどの社会状況の変化に応じた横浜市の考え方を踏まえて、地域交通サポートの PR を進めてはいかがでしょうか。便利なバスの理解も深まると、話し合いのきっかけになります。
- [事務局] 乗合タクシーを導入した事例を口頭でご紹介してもイメージがわからない方も多いのが現状です。試乗会の必要性も感じています。
- [委員] 市の方と地元で頑張っている方の生の声を聴くことができる、他の地区を紹介する事例発表会があっても良いのではないのでしょうか。これが、他の地域に影響するという経験があります。
- [事務局] 3月に二重交通さんと地元で発表の依頼があります。我々がその場をつくるまでは至っておりませんが、去年は日野ヶ丘地区が、表彰を受けました。現在は、外部からの要望に応える形ですが、内部からのしかけも考える必要があると思います。